

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-512-1636
090-9602-0700

有明海 沖 福岡県 色落ち

4年ぶりノリ色落ち 福岡県沖有明海【西日本1月23日】

福岡県沖の有明海で、養殖ノリの一部に色落ち被害が出ていることが22日、同県水産海洋技術センターの有明海研究所の調査で分かった。同県沖で色落ちが確認されたのは4年ぶり。

福岡県有明海漁連（西田晴征会長、同県柳川市）は同日、理事会を開いて対応を協議。状況が改善しない場合は、26日に佐賀県有明海漁協と連携して福岡・佐賀両県に、筑後川上流の下釜（しもうけ）・松原ダムから4日間（28-31日）に約173万トンの緊急放水をするよう要請する。

色落ちが見つかったのは、柳川市沖合約4キロの漁場。今季は少雨や栄養塩を食べるプランクトンが増加した影響で、今月中旬から栄養塩不足が続いているという。西田会長は「雨に期待する。このままでは放水を要請する可能性が高い」と話した。

諫干開門訴訟 GW前後に現地視察

【佐賀1月19日】有明海沿岸漁業者らが国営諫早湾干拓事業の潮受

け堤防の排水門開放を求めている訴訟の控訴審の進行協議が18日、福岡高裁であり、裁判官の現地視察を大型連休前後の4月中旬から5月までの間に行うように日程調整することを確認した。

諫早湾堤防外の海の状況、堤防内の調整池の水質、干拓地での営農状況などを1日で行う方向で検討した。裁判官もできるだけ多くの場所を見ることを望み、漁業者、国の双方が提案した日程案をたたき台に、2月23日の次回進行協議で決めることにした。

裁判官の現地視察は、2007年2月に地裁が行ったが、高裁では初めて。漁業者側の弁護団は「実際に海を見てもらうことで、沿岸全体に影響が出ていることを理解してもらえるとと思う」と話した。

諫早湾干拓事業 堤防開門問題

【毎日1月21日】古川康佐賀県知事が、国営諫早湾干拓事業（諫干）潮受け堤防の開門問題を巡る赤松広隆農相の対応に不満を抱いている。農相が求めた通り長崎県の金子原二郎知事と会談したのに、農相自

面会先延ばし発言で佐賀県 知事、農相對應に「不満」

身から「対応は長崎知事選が終わってから」と古川知事との面会を先延ばしするような発言が出たからだ。19日の記者会見では「最初に言ってくれば金子知事に会う必要はなかった」との苦言も口にした。

赤松農相の発言は15日の記者会見。諫干問題への対応を問われ「長崎知事選は」2月には決着がつくから、それを待ってやっていきたい」と述べた。

関係者によると、この発言に知事は「怒りで爆発する」寸前だった」という。側近から「大人の対応を取りましょう」と言われ、表向きは穏やかな姿勢を取っている。

しかし、腹の虫は収まらないようで、19日の自身の会見では「発言の真意を確認中」と農相をけん制。「もし新しい知事と話し合いをする方が望ましいというなら、金子知事と会う必要はなかった」とまで言った。

いまだ実現していない農相との面会については「（農相の）言葉を信じて努力しており、抗議に行くというわけでもない」と微妙な言い回しをしつつ、「分かってほしい」と呼び掛ける。

農相は昨年10月、古川知事に「まず地元同士で」と佐賀・長崎両県知事の協議を要請。古川知事は12月、渋る金子知事との会談を実現させた。

古川知事はその「実績」を持って、農相との面会を18日の通常国会開会前にと求めたが、農相側は日程調整を理由に応じなかった

長崎県知事候補に 諫早開門公開質問状

よみがえれ！有明海訴訟を支援する長崎の会（代表高村暎）は、1月20日、長崎県知事候補に対し、諫早湾排水門の開門調査に関する公開質問状を送った。質問は、県知事になった場合に開門調査の実施に關し対立する関係者間の意見を調整し合意をすすめる努力をするかを問うもの。回答期限は2月1日。

同会は有明海再生と漁業・農業の両立を願う立場から「段階的な開門調査」「防災・営農対策」を求める署名運動に取り組んでいる。